

生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら

会場 ちひろ美術館・東京 展示室1・2
会期 2021年6月19日(土)～9月26日(日)

主催：ちひろ美術館 特別協力：赤羽家 協力：あかね書房、偕成社、講談社、童心社、福音館書店、平凡社
後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会 協賛：株式会社ジャクエツ



図1 「だいくとおにろく」(福音館書店)より 1962年

その伝統美を、その風土をしっかりと追求し、
現代の器にもって、絵本を通して子どもに伝えたい

赤羽末吉 1981年

『八方やぶれの展開』より 『私の絵本ろん』(平凡社)収録

50歳のときに最初の絵本『かさじぞう』を墨絵で描き、日本の絵本に新風を吹き込んだ赤羽末吉。若いころからほぼ独学で日本画の修練を積んできた赤羽は、それぞれの絵本の主題にふさわしい絵画表現を求めて、日本の伝統的な美術を研究し、独自の解釈で絵本に取り入れています。壮大な歴史物語である『源平絵巻物語』や『日本の神話』は華麗な大和絵風の絵で、昔話『したきりすずめ』は簡素な丹緑本風に、自作のナンセンス絵本『おへそがえる・ごん』は絵巻「鳥獣戯画」に学んで、一作ごとにバリエーションに富んだ画風を展開しました。

1980年に日本で最初に国際アンデルセン賞画家賞を受賞した赤羽は、「日本の古い伝統的な美術の美しさに現代的な解釈を加えたものを、次の世代の子どもに伝えたい」と授賞式で語りました。本展では、赤羽末吉の絵画表現に着目し、子どもたちに開かれた日本美術のとびらともいえる絵本を紹介します。



赤羽末吉 (あかば すえきち 1910～1990)

東京・神田に生まれる。1年ほど日本画を学び、以後独学。1932年旧満州(中国東北部)に渡り、運送業や電信電話会社などの仕事のかたわら、郷土文化の研究、日本画の制作に励み、1940年から3年連続で満州国美術展覧会で特選賞を受賞。終戦を経て1947年帰国。1948年から52年までGHQの民間情報教育局(CIE)で、以後69年までアメリカ大使館で働く。1961年、50歳のときに最初の絵本『かさじぞう』を出版、以後80冊を超える絵本を発表した。国際アンデルセン賞画家賞(1980年)をはじめ、国内外の受賞多数。





図2 『かさじぞう』(福音館書店)より 1960年

雪国を墨絵で描いた 最初の絵本『かさじぞう』

戦中戦後の15年間を過ごした中国東北部(旧満州)から日本に帰り、赤羽はまず湿潤な風土の美しさに魅せられたといえます。特に雪国は、赤羽にとってまさに墨絵の世界であり、最初の絵本『かさじぞう』も墨絵で描いています。水をたっぷりふくんだ墨線は、雪の湿り気とともに、民話の素朴さを伝えています。

墨絵と大和絵の二刀流

赤羽は絵本に古典絵画を新しい感覚で取り入れ、おおらかで型破りな画風を打ち出していました。

特に「簡素」の墨絵、「豪華」の大和絵、この相反する二つが好きで使いわけているといい、この二刀流は江戸初期に活躍した画家・俵屋宗達の影響かもしれないと語っていました。



図3 『そら、にげろ』(備成社)より 1978年



図4 『へそもち』(福音館書店)より 1966年



図5 『したきりすずめ』(福音館書店)より 1982年



図6 『源平絵巻物語 第五巻 ひよどりごえ』(備成社)より 1971年/1979年

「私にはカマエはない」

自分の技にこだわらず「与えられた主題をどう生かすか、その主題のねらいは何か、それに専念する」と赤羽はいいます。物語を視覚的に解釈し、もっともふさわしい絵画表現を考えて、筆を変え、和紙を選んで描かれた赤羽の絵本は同じ画家の絵とは思えないほどバリエーションに富んでいます。

赤羽流「鳥獣戯画」——『おへそがえる・ごん』

おへそを押すと口から雲が出るかえるのごんと仲間たちが、化け物や山賊を退治しながら旅する『おへそがえる・ごん』(全3巻 1986年)は、赤羽自作の大長編物語絵本です。十二世紀の絵巻「鳥獣戯画」の表現に学んだこの絵本では、墨によるのびやかな線画で、かえるも人も対等に描き出され、横長の頁をめくるごとに次々と物語が進行していきます。



図7 『おへそがえる・ごん①ぼんこつやまのぼんたとこんたの巻』(福音館書店)より 1986年



ちひろの花鳥風月

2021年6月19日(土)～9月26日(日)

会場：ちひろ美術館・東京 展示室3・4

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ

ちひろは身近な自然をいつくしみ、移ろう季節の風物をみずみずしい感性でとらえて、絵に描きました。日本では古来より、自然の風物を「花鳥風月」といい、絵画や詩歌などの重要な主題としてきましたが、ちひろの絵のなかにも日本的な美意識は脈々と受け継がれています。

また、ちひろの絵は、表現においても琳派の絵画とも通じる装飾性と大胆な構図や、たらし込みの技法など、日本の伝統的な美術との接点も見られます。

本展では、四季折々の草花や夜空の月、小鳥や蝶などのモチーフとともに遊ぶ子どもたちを描いた作品のほか、万葉集のうたに絵を描いた『万葉のうた』や、絵本『あめのひのおるすばん』を、原画やピエゾグラフ作品*で展示します。詩情あふれるちひろの花鳥風月をお楽しみください。

*ピエゾグラフ作品：原画の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術による耐光性のある微小インクドットで精巧に再現した作品



図8 藤の花と子ども 1970年



図12 梅『万葉のうた』(童心社)より
1970年



図9 くちもとに指をそえた少女
『あめのひのおるすばん』(至光社)より
1968年



図10 秋の花と子どもたち 1965年



図11 ふきの若葉とすみれ 1972年

18歳より小田周洋に和仮名の書を学び、娘時代から「万葉集」を愛読していたちひろは、1970年、若い人向けに絵本化した『万葉のうた』を制作します。ちひろは水墨画に通じる表現によって、いにしへの万葉の世界を描き出しました。原画のほか、ちひろの書など関連資料もあわせて紹介します。



●赤羽末吉展 関連イベント

赤羽茂乃講演会
「赤羽末吉の旅と絵本」

2021年6月27日(日) 14:00～16:00

文化庁 令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

「生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら」の開催を記念して、赤羽末吉の研究家であり、三男の妻でもある赤羽茂乃さんによる講演会を行います。日本の風土を描こうと各地を旅した足跡や、赤羽末吉の絵本の魅力について語ります。

会場：練馬区立石神井図書館
(練馬区石神井台1-16-31 TEL.03-3995-2230)

講師：赤羽茂乃

定員：30名

参加費：無料

対象：どなたでも

※本講演会は、練馬区立貫井図書館(30名)・南田中図書館(20名)で同時上映を予定しています。

申し込み：要事前予約
(5月27日より各会場電話、カウンターにて受付)

●石神井図書館…TEL.03-3995-2230

●貫井図書館…TEL.03-3577-1831

●南田中図書館…TEL.03-5393-2411

赤羽茂乃 Shigeno Akaba

1952年、東京に生まれる。1979年、絵本画家・赤羽末吉の三男、研三と結婚。住まいを近くし頻繁に行き来しながら、義父である赤羽末吉の日々の暮らしに触れる。1990年、赤羽末吉他界後は、夫の研三とともに遺された原画やフィルム、スケッチなどの整理に携わりながら、絵本画家が辿った軌跡とその作品について調査を重ねる。現在、赤羽末吉研究の第一人者として、その生涯と作品の魅力を多くの人々に伝えるため、各地で精力的に講演活動をおこなっている。横浜市在住。



【次回展示予定】

10月2日(土)～2022年1月16日(日)

●ピエゾグラフによるわたしの好きなちひろ展

●ちひろの歩み—童画から絵本へ—

※2022年1月17日からは冬期休館となります。

●赤羽末吉展 関連展示

生誕111年 赤羽末吉展 絵本への一本道

2021年3月1日～5月30日 安曇野ちひろ美術館

22歳で渡った中国東北部(旧満州)で画家となり、戦後の日本でその風土の美しさを再発見し、50歳から絵本を描き始めた赤羽末吉。日本を代表する絵本画家となった赤羽の人生と画業をたどります。

生誕111年 赤羽末吉展 スーホの草原にかける虹

2021年5月29日～6月30日 銀座教文館9F ウェンライトホール(東京・銀座)

『スーホの白い馬』(全場面)をはじめとした中国やモンゴルの民話の絵本をピエゾグラフで展示するほか、赤羽が、内モンゴルやミャオ族の里を旅したときの写真や資料も紹介します。

●赤羽末吉展 関連書籍



『コロナブックス 赤羽末吉 絵本への一本道』

平凡社 本体2000円(税別)

赤羽末吉がたどった絵本画家への道を、豊富な資料で紹介します。



『絵本画家 赤羽末吉 スーホの草原にかける虹』

赤羽茂乃・著 福音館書店 本体2500円(税別)

戦前・戦中・戦後を力強く生き抜いた赤羽末吉の生涯を、三男の妻として身近に接した赤羽茂乃さんがつづります。

*当館ミュージアムショップでも取り扱っております。

●展覧会関連テーマブックス@図書館

文化庁 令和3年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

本展の開催にあわせ、ちひろ美術館周辺の3つの図書館に、赤羽末吉の絵本や書籍、花鳥風月に関連し日本の豊かな文化を紹介する書籍などが特集されたコーナーが設けられます。美術館で原画をご覧になったあとは、図書館で本も手にしてみてください。

場所：石神井図書館(練馬区石神井台1-16-31 TEL.03-3995-2230)
貫井図書館(練馬区貫井1-36-16 TEL.03-3577-1831)
南田中図書館(練馬区南田中5-15-22 TEL.03-5393-2411)

【美術館基本情報】

●展覧会名…生誕111年 赤羽末吉展 日本美術へのとびら
ちひろの花鳥風月

●展示会期…2021年6月19日(土)～9月26日(日)

●開館時間…10:00～16:00(入館は閉館の30分前まで)

●休館日…月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)

●入館料…大人1000円/高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をご提示の方は800円

障害者手帳ご提示の方、介添えの方1名までは無料

年間パスポート3000円

●交通…◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)

※お客さまに安全にお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分な措置を講じたうえで、開館しております。当面の間、開館時間を短縮しています。

※開館情報、会期、展示名などは予告なく変更する可能性があります。